



6月県会をかえりみて

監査委員に

櫛山弘氏、田中典次氏、高野英夫氏、

松村弘氏

収用委員会委員に

神山秀雄氏、尾池秀雄氏

収用委員会予備委員に

乙益重隆氏

右の方々がそれぞれ選任されることになりました。

町村合併については、上益城郡河原村、阿蘇郡山西村が合併して阿蘇郡西原村として発足することになり又、八代郡竜峯村を廃して、その区域が八代市に編入されることになりました。

条例関係では、新しく熊本県飼育犬取締条例が制定され、犬を所有しておられる方にいろいろ守って頂くことが定められました。

さらに、県庁の公文書が従来の縦書から横書に改められることにきまりました。

以上が六月定例県議会における内容の主なものです。

次に、県有林の払下げ問題については、議会では県有林調査特別委員会が新設されて調査されることになり、県では監査委員に調査を依頼しました。

県有財産の管理処分等については、今後さらに慎重を期し十分注意する考えです。

(財政課)

その外に人事関係では
公安委員に
中島繁次郎氏、木見田三代治氏

広報くまもと一四一号

昭和三十四年六月二十五日第三種郵便物認可 昭和三十五年七月十日熊本県広報課発行(熊本市行幸町一九)二十円 印刷・株式会社誠輝印刷所(熊本市手取本町四八)

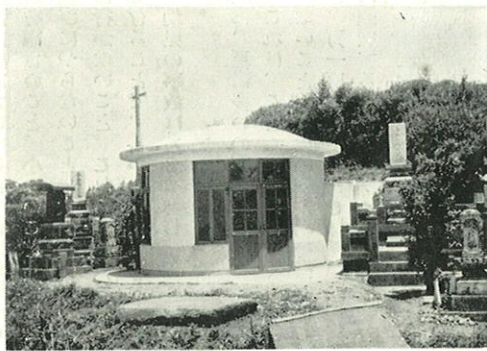
郷土文化めぐり

(その3) 山鹿市

チブサン古墳

市の北部、岩野川にのぞむ平小城台地には装飾古墳として有名なチブサンがある。乳の少ない婦人がこの古墳に祈れば霊験があるというので、甘酒を供えるものが絶えない。「チブサン」という名は、昔この地方を「チブヤンゲ」といつていたからである。

チブサン古墳は前方後円、その真中一つ一つの石が立つていたが、それはお墓の守護人だといわれ、今は東京国立博物館に蔵されている。内部は前室、後室に分れ奥室の厨子型石棺には赤、白、青の幾何学的デザインで飾られ、原始的な美意



<弁慶が穴古墳>



△チブサン古墳の入口▽

識を示している。今から千三百年以上も昔の絵が鮮明に残っていることで有名である。

弁慶が穴古墳

市の中心部からちよつと北に行くところには装飾古墳の雄として最近学界の注目を浴びた弁慶が穴古墳がある。これは六世紀はじめごろ造られた前方後円墳である。石室は前室、後室に分けられ、前室に舟と馬を組み合わせた絵や、馬にのつた人物、同心円や菱形の幾何学文様が赤、白、青の三色で力強く描かれている。先年鉄筋コンクリートのドーム状の保護施設を行ない、鉄扉をあけて入るようになっており、電灯のスイッチを入れると石室内部の装飾古墳が十分見られるようになった。

(山鹿市教育委員会)